

平成22年度 第3回

(2010年度)

吹田市景観まちづくり審議会

日時 平成22年11月17日(水)午後2時00分

場所 吹田市役所 中層棟4階 第4委員会室

平成22年度 第3回吹田市景観まちづくり審議会会議録 (要点筆記)

1. 開 会

樽上都市整備部総括参事

2. 市挨拶

山中副市長

3. 会議進行

樽上都市整備部総括参事

4. 案件説明

西山都市整備室参事

議案第3号 景観形成基準の変更について(諮問)

鳴海会長 この地区の他の土地は開発済みか。

樽上都市整備部総括参事 全て完了している。

鳴海会長 原案通りで答申することに異議はないか。

(異議なし)

鳴海会長 では、原案通り承認する。

「平成22年度景観まちづくり活動事業補助金」について(報告)

鳴海会長 OPH郷の会自治会について、花壇づくりはもう始まっているのか。

西山都市整備室参事 今までから継続している花壇づくりは、当然継続されているが、補助金申請内容に基づいた、団体としてのデザインングや、それに基づいて進めていくのはもう少し後になりそうだと言っておられた。

鳴海会長 寒くなるのでどうするのか。冬に植えても育つのか。

A委員 冬はなかなか難しい。今年度に予算は使われるのか。

西山都市整備室参事 はい。

A委員 地図は21区画のまま当初の申請のものと変わっていないが、そ

れを新たにデザインするということが。

西山都市整備室参事 はい。今の時点で変更としては出せないと聞いている。

B委員 個人的な花壇をつくるようになっていたのを今年だけ補助をして、団体としての事案が終わった場合に、それは継続されるということが補助の条件になっているのか。こういうのをやります、いろんなところでこれで行ったらどうぞと増えていく可能性もあるので、同じような形のパターンをやっていって、後は個人ですよと、そういう風なシステム化をされたらいかがか。今度お金を払うのは個人ですよとか。団体でかかるとか。そのあたりがどうなっていくのか。自分のところでやりたい人はどんどん増えていく可能性がある。

西山都市整備室参事 今回の計画では補助金をもらって、統一的な見栄えの花壇をつくって、景観まちづくり活動団体の立ち上げのきっかけにしたいというところがあるので、補助金をもらおうと考えておられる。今回は個人の出費を浮かすというより、さらにそこに補助金の額を足して良いものをつくりたいという計画だ。次年度以降については、現時点では具体的なお話は聞いていないが、毎年補助金がないと花壇ができなくなるというようなことはないと言っている。

B委員 花壇は元の木阿弥にならないか。費用があってその年は良かったが、今後自分たちのお金だけで縮小されてはもったいないので、これからは開始からこういう方向性があるというところをうまくピックアップしていった方が、いくらでも増えていく方が良いのであればそのようにすべき。将来像についても、次のステップを検討していくようにすべきだ。

鳴海会長 趣旨・目的に書かれていることがうまく進むようにアドバイスをし進めていくこと。

平成 22 年度の今後の事業について（報告）

鳴海会長 今度の景観カフェは、歩いてその後どうするのか。

西山都市整備室参事 高町台住宅地周辺を歩いて、その後山田市民体育館の会議室に集まって、ワークショップを行なう。第 1 回では、まずは

自分たちが楽しんでいるガーデニングがまちなみにどういう影響を与えているのか、まちなみの中で玄関まわりの花が、どれほど景観上力があることなのかということを知っていただくのが目的だった。今回は、かなり広い範囲を歩いていただくことになるので、個々のガーデニングというよりは、まちなみとして見ていただいたときのガーデニングのあり方といった、どんな風にするともちなみが楽しく見えるか、きれいに見えるかといったことを気付いていただくという企画である。

久副会長 山田市民体育館まで行くのであれば、新小川のバス停のところでグループさんが花を植えているところがあるので、見ていただけののでは。

樽上都市整備部総括参事 そこまで行くには少し遠いかと思う。元々阪急さんが分譲した王子住宅で、昭和50年代の昔のつくりの敷地を見てもらい、高町台住宅地で今の新しい敷地のつくり方をみてもらい、後は山田市民体育館で話していただくのが精一杯の時間かと思う。

久副会長 自治会長に送ったときの反応を何点か具体的に教えて欲しい。

西山都市整備室参事 お問い合わせいただいた内容は、「景観カフェはどんなことをしたのか」ということ。それについては、「どういう方を対象にどういう話をしたのか」といったお問い合わせが一番多かった。補助金やアドバイザー派遣についても記事を書いているので、大きい話として「どんなことをやっているのか、私たちにも応募できるのか」といったお話が出ていた。その中で何点か、この審議会でも話題に上がったが、「単純な花壇づくりで補助金をもらえるか」というお問い合わせをいただいた。「花壇をつくるからお花を買うお金を補助する」というような補助金ではなく、景観のまちのルールをつくる際等にお渡しする補助金だという説明を、3件くらいさせていただいた。次に多かったのが、「景観デザインマニュアル」についてで、「家の近くでももらえるところはあるか」というお問い合わせが多かったが、「冊子の数も多く、出張所等においてももらうにも場所をとるので、今のところ都市整備室での配布としている」と回答をしている。

久副会長 「取りに来て」ということか。

西山都市整備室参事 基本的には、是非市役所に遊びに来てください

と。そこでやりたいことなども伺いできれば、それに応じた誘導をしたい。また、今のところまだないが、高齢者や身障者に対しては、郵送等も考えている。

久副会長 郵送という方法もあるが、例えば、千里丘の方から連絡があった場合、職員が出張所にいて、千里丘出張所にお届けをして手渡しをすとか、そういう折衷案もあるかと思う。

鳴海会長 景観カフェは2回だけか。

西山都市整備室参事 年度当初に予算もない中でどうしていくかと検討した際に、3回の企画を考えていた。第1回がガーデニングについて、第2回では当初からまち歩きがしたいと思っていた。第3回は、当初考えていたのは今回歩かせていただく高町台住宅地に、表彰を受けられたということもあり、それをきっかけに何かまちで景観まちづくりを進めていきませんかというような、そのまちのみなさんを対象にした景観カフェをできないかといった企画をしていた。今回まち歩きをさせていただくということで、自治会長さん宛てに文書や、電話、ご自宅への訪問をさせていただいて、ご相談をさせていただいた。残念なことに、表彰させていただいたときの自治会長さんと今の自治会長さんは代わっておられる。当時の自治会長さんは何度か話をしたが、表彰を受けられたことを非常に喜んで、すごく名誉なこととさせていただいていたのが非常によくわかったので、それをきっかけに動いていただこうと企画をしたが、自治会長さんが代わっていると、兵庫県のどこかの市主催のまち歩きのイベントで、自治会長に許可を得たからといって、勝手に人の庭に上がりこんだといったことがあったらしく、そういったことを聞き込んでこられ、自治会長さんとしては、まち歩きも慎重に対応したいといったお話もあったが、表彰当時のお話や、市がまち歩きで景観のこういった計画を立てているということをお話させていただいたところ、まち歩きについてはご了解いただいたが、地域の中でのイベントをさせて欲しいといったことについては今のところ前向きにはご回答いただいていない。市としてもこれで終わりということではなく、継続して自治会長さんへお願いを続けている。現時点で景観カフェが何回になるかということについては、今年度は2回かもしれないし、そちらの方で好感触がもし得られた場合には第3回を相定通り実施したいと考えている。

鳴海会長 どんどん続けていくと、普通考えるとガーデニングなどのテーマになるが、「看板・広告」等のテーマでイベントをすると来る人はいるか。

久副会長 わりと集客が多いのは「歴史」関係。岸部東村や山田の集落とか。

B 委員 是非お願いしたい。ある程度歴史のあるところを見るときに、そのまわりのまちづくりが非常に重要になってくると思う。史跡はわりとぽつんとあるものなので、そういった地域を対象として企画していただけたら、もっと観光という目線でみれば発展していくのかなと思う。まわりの方が開発をどんどんされると、せっかく歴史を見に行っても価値が下がるので、グループでルールをまもるということを「景観」という形でやっていただけたら、史跡に行くまでの経路も楽しめるのではないかと思う。歴史地区として定めるとか。

C 委員 「あルック吹田」で、細い道まで線が引かれているが、苦情等はないのか。「知る人ぞ知る」といった良い道が載っている。

樽上都市整備部総括参事 「あルック吹田」のコースを市報で歩く場所や時間を公表し、参加を募っている。まち歩きをされて苦情が出たという話は聞いていない。景観でも平成19年に、景観まちづくり計画をつくる際6箇所タウンウォッチングをしたが、参加者には歩くとき、玄関先を覗き込んだり、「あの建物が悪い」とか批判をしないなどのマナーを最初に説明した。昨年改正した景観デザインマニュアルでも、注意事項を書いた。どうしてもみんなで歩くと、トラブルが発生しやすい。今回、高町台住宅地にまち歩きさせていただきたいと言ったときに、自治会としても二の足を踏まれている。

A 委員 今回、まち歩きの景観カフェは、案内される方がいるのか。

樽上都市整備部総括参事 市の職員が先頭に立って、参加者を募って、限定した人たちを、10人程度を1グループとして歩いていこうと考えている。コースもあらかじめ決めて、我々が説明をしながら見ていってもらおうと考えている。

A 委員 たぶん、景観アドバイザーなど、こういうところを見てくださいというポイントがたくさん現場にある。現場で感じるということがものすごく大切なので、パッと見ただけでは気付かないので、現地でアドバイス等しながら歩

いた方がいいのでは。もう一つは、先ほど岸部の話でもあったが、学生にまち歩きをしてもらうことがあるが、最低でも三回くらいは行かないと、よく仕込まないと面白いまち歩きにならない。調べて、現地に行って面白そうなものがあり、帰って調べてもう一回見て、そういうことを何回かすると他の人に説明できるようなまち歩きのプログラムができる。こういう一回限りのものもあるし、場合によっては場所を決めて、探偵団のように3回程度まち歩きをしていただいて、参加者が他の人に案内をするということをする、ある特定の場所で資材を共有化できるし、自分たちもわかるし、案内された方もわかるし、自分たちで宝物を発掘するようなことも考えてもいいのでは。

樽上都市整備部総括参事 スタンブラリーのような方法ですとか、テーマを与えて各自で探してもらう方法等、いろんなまちあるきの手法をいろいろ勉強したい。

A 委員 案内する方が楽しくなると思う。いろんな発見をして、それをまたいろいろ調べてそれをみなさんに案内するというのは、3回分くらい楽しめる。

B 委員 今まち歩きというのは「まち案内人」の資格をもっている方がかなりいらっしゃる。「あるっく吹田」をつくったところと提携していけばよいのでは。

C 委員 おそらく説明したいことが違う。学生と「あるっく吹田」を持って一緒に歩くが、やはり「景観の目線」で見ると、「あるっく吹田」をつくった人が見るのでは、ある場所を見て、次はこの場所です、となるので、間の道の説明などが無い。少し視点が違うので、先ほどA委員がおっしゃった、「景観を見るのに長けた人」に案内してもらおうとまた違う。

B 委員 「まち案内人」に景観も知っているということをプラスアルファしてもらうことはできないのか。

C 委員 歴史的なことを説明しながら歩くのは比較的やりやすいが、それが少し崩れているのがこれというような目線でみるので、やはり役目が違うと思う。

D 委員 先ほど、個人の庭に立ち入ってという話が出たが、私の知っている話では、兵庫県で「オープンガーデン」という、ある日を決めて、丹精に手入れをされた個人のお庭を開放するといったイベントがある。そういうこと

もまちの景観を応援するような一つのイベントではあるかと思う。吹田市の中でもお庭を見せたい人もおそらくいるので、そういったネットワークができるといいまちにつながるのかなと思う。

5. 閉会

鳴海会長 次回は平成23年2月21日(月)午前開催とする。

樽上都市整備部総括参事 次回開催案内及び議事録は後日委員各位に送付する。